

令和元年度 第1回 垂水市総合教育会議

1. 日 時 : 令和 2年 2月7日(金) 13:30 ~ 14:30
2. 場 所 : 垂水市市民館2階 第1研修室
 1. 開 会
 2. 市長あいさつ
 3. 協 議
3. 会 次 第 :
 - (1) 垂水市教育振興基本計画(案)について
 - (2) 意見交換
 - (3) その他4. 閉 会
4. 出 席 者 : ・尾脇市長 ・坂元教育長 ・田原教育委員
・葛迫教育委員 ・田之上教育委員 ・福里教育委員
5. 教育委員会 同 席 者 : ・紺屋教育総務課長 ・明石学校教育課長 ・野嶋社会教育課長 ・米田国体推進課長
6. 傍 聴 者 : なし
7. 事 務 局 : ・二川企画政策課長 ・脇政策推進係長 ・瀬戸口政策推進係主事

企画政策課 … 皆さんこんにちは。

二川課長

定刻前でございますが、皆様お揃いでございますので、ただいまから、令和元年度第1回垂水市総合教育会議を開会します。本日の会議の進行を務めさせていただきます、企画政策課の二川でございます。よろしくお願い申し上げます。

本会議は、住民への説明責任を果たすとともに、その理解協力の下で教育行政を行う趣旨を徹底するため、原則として公開で行うこととされていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず最初に、尾脇市長からあいさつをお願いいたします。

尾脇市長 …

皆様改めまして、こんにちは。垂水市長の尾脇でございます。それぞれにお忙しい中にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

まず、近況報告をしたいと思います。1月27日の早朝に大変な風が発生いたしまして、某地域のビニール、支柱が折れ曲がる被害が出ておりまして、現状でビニールハウスで軽トラック400台くらい、60トン出ていまして、その分は早期に1か所に集めて対応すると話になっているのですが、支柱が結構折れ曲がっている交換するということになりますと結構な、あるいは収穫前のメロンがダメになったり、あるいはキヌサヤと相当な被害が出ております。そのことを踏まえて、先日、知事

をはじめ、農村に伺いました。さらには2月3・4日に上京して、地元の国会議員の先生、森山先生にご相談を申し上げまして、9日に現地視察に来ていただき、19日には農林副大臣が来ていただくということがあります。皆さんにいろいろなお問い合わせがあると思いますが、垂水市としてはできる最大限の支援をして参りたいと考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいと思ひます。

また、今年度に入りまして、1月11日に桜島爆発総合防災訓練ということで50回目を記念して鹿児島県と垂水市と連携をして「道の駅たるみず はまびら」を会場にしながら行いました。一番の想定は大量の降灰が降った時に井口先生もご同行いただいたのですが、1mくらいの灰が積もる可能性がある。それをどうやって早く取り除いていくのかが、いろんな意味での大きなポイントということでございまして、当然、国道で例えるのならば牛根のエリアに関しては、霧島の方から灰を撤去することになると思ひますし、南部のエリアからは鹿屋からとなると思ひますが、そうなったときに2週間からそれ以上かかる。家畜だったり、いろんな意味での問題になりますので、それを早く解決するために中央から、この間輸送艦「くにさき」という200mくらいの大きな輸送艦が停泊をしていただいたのですが、その中にホバークラフト、大型のクラフトを積んで重機やそのような機械を積み込めるということでもありますので、それを街中に降ろして周りのどこからやっていけば速いのか等々、こないことを祈りたいわけでもありますけれども、自然の節理から考えますと100年前に大爆発が起こって、9割以上マグマがたまっていることを考えますと、いつかその時期が来る。その時に人災をまず出さない、復旧復興を早く行う、ということだと思ひますのでそのことをご理解いただきたいと思ひます。

それから1月27日に「垂水の夕べ」というものを開催させていただきました。2月1日から1か月間、城山観光ホテルで垂水の食材を使っていただくというイベントに合わせて、オープニングイベントということで約300名の方々にお越しいただきまして、垂水の食材をPRするイベントを開催させていただきました。オープニングに際して葛迫先生にもご協力いただいて大変盛り上がった会でした、というところが現状報告であります。

それでは、本日の総合教育会議に際しての挨拶を少しさせていただきますと思ひます。

現在、日本は少子高齢化による様々な問題に対応していくため、地方創生が重要な課題となっているところであります。そして、その地方創生を実現していく上で重要な原動力となるのは「人」であります。地方の将来を考えたときに最も重要なことのひとつが人づくり、「教育」であると思ひております。教育委員会の皆様と私共行政部局の関係者がしっかりと意思疎通をし、一緒になって子供たちを応援、支援していくことが大変重要であることだと思ひております。

本日は率直な、忌憚のない発言をお願いしたいと考えております。坂元教育長をはじめ、委員の皆様には平素から教育行政にご尽力いただいておりますことに、この場をお借りいたしまして感謝を申し上げ、本日の会議が子供たちの将来にとって、そしてこれからの教育政策が充実することにつながるよう心から期待をして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

企画政策課 … ありがとうございます。それでは、協議に入りたいと思います。
二川課長 … ここからの協議事項に関する進行につきましては、尾脇市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

尾脇市長 … それでは、まず、協議事項（１）垂水市教育振興基本計画（案）について、教育総務課から説明をお願いします。

教育総務課 … 教育総務課長の紺屋です。よろしくお願いいたします。
紺屋課長 … まずは資料のご確認をいただきたいと思います。まずは「垂水市教育振興計画」抜粋分、「垂水市総合教育会議」と書かれた１枚紙、「計画期間における具体的な取組・事業」の３つあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは垂水市教育振興計画（案）についてご説明申し上げます。平成２７年４月１日に地方教育行政組織、および運営に関する法律の一部改正がなされ、第１条の３－第２項に「地方公共団体の長は大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、次条第一項の総合教育会議において協議するものとする。」とあることから、皆様方にご協議いただくわけでございます。

なお、平成２６年７月１７日の文科省初等・中等教育局長通達で地方公共団体において教育基本法第１７条第２項に規定する教育振興基本計画「その他の計画を定めている場合には大綱に位置づけることができる」と考えられることから、地方公共団体の長が総合教育会において教育委員会と協議、調整し当該計画をもって大綱に代えると判断した場合には別途大綱を策定する必要はないこと。」と通達があったことから平成２７年度から令和元年度の今現在、動いております「第２期垂水市教育振興基本計画」もとより今回策定する「第３期垂水市教育振興基本計画（案）」においても大綱に代えると判断されますことから、大綱に代えて策定するものでございます。

それでは資料をご覧ください。表紙につきましては「垂水市教育振興計画（案）」と書いているものでございます。表紙につきましては感動と夢を育む教育を、学校教育課、社会教育課、スポーツ、文化芸術が連携して目指すとともに、令和２年度から小学校の学習指導要領も変わることから新たな教育のスタートと考え、写真においてもその思いを伝えるべく取り入れたところでございます。第３期垂水市教育振興基本計画（案）は全７５ページで策定しておりますので、本会議においては抜粋し、資料としてご準備いたしました。策定理由及び教育振興基本計画につきましては、教育基本法に基づき策定される国の教育基本計画の基本

的な方針及び県の教育振興基本計画を参酌して、地域の実情に応じ教育基本計画を策定することとなっており、平成22年度に第1期計画を策定し、現行の計画は平成27年度から令和元年度までの第2期の計画であります。今回計画の最終年度を迎え、社会情勢の変化に対応するとともに、第5次垂水市総合計画が平成30年に策定されたことやこれまでの計画の各施策の実施状況や数値目標の達成状況を踏まえながら策定を進めてまいりました。

本計画は令和2年度から10年間を見据えた教育の姿を示すとともに、令和2年度から令和6年度までの5年間で取り組む施策を体系化しているところでございます。

1ページをご覧ください。基本目標として本市の教育の将来像と基本目標を掲げ、第5次垂水市総合計画の「九つの彩り豊かに 健やかな人を育むまち 垂水」の将来像のもと、教育振興基本計画においては情報化やグローバル化など急激な社会変化の中でふるさと垂水の豊かな教育資源を生かしながら、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし特色ある開かれた学校づくりを進めるとともに、「夢や希望を実現し次世代を担う垂水の人づくり～あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり～」と基本目標に掲げ、垂水ならではの教育の推進を重点目標に掲げ、施策に取り組んでまいります。1ページの下から5行目「垂水ならではの教育の推進」となっておりますが、「ならではの」後に「の」が入りますので、訂正方よろしくお願いいたします。

それでは2ページをご覧ください。本市の第5次計画のもと教育振興基本計画による基本目標や重点目標、重点施策を体系化しております。5次総計と合わせて、教育振興基本計画においてはそのもとで教育の振興を図っていくことでそれぞれの目標ならび重点施策を体系化しているところでございます。

3ページから4ページをご覧ください。第4章では本市の教育の取組における視点としまして「(1) 時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重」、「(2) 社会の変化に対し、夢や希望を実現する能力の育成」、「(3) 学校・家庭・地域・企業等の積極的な連携・協働」、「(4) 郷土の教育的な伝統や風土の活用と未来への継承」の4つの視点により施策の推進を図ってまいります。

5ページをご覧ください。本市の教育施策の方向性としましては、基本目標実現のために今後5年間に取り組む本市の教育施策の方向性としまして、一つ目はお互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進、二つ目には未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進、三つ目には信頼され、地域と共にある学校づくりの推進、四つ目には地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進、五つ目には生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興の5つの方向性により施策の推進を図ってまいります。それぞれの方向性について学校教育課ならびに社会教育課、国体推進課のそ

それぞれの事業を展開していく方向でございます。

7ページをご覧ください。今後5年間の具体的な施策を今申し上げましたが、それぞれの方向性に基づき展開をしてまいりたいと思います。それぞれの5つに対して、例えば道徳の充実であったり、二つ目の未来を切り拓くための能力につきましては、確かな学力の定着、三つ目の信頼され、地域と共にある学校づくりの推進については開かれた学校づくりと垂水高等学校への支援、四つ目の地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進については、地域ぐるみで子供の育成を行っていく、五つ目の生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興については生涯学習環境の充実であったり、生涯スポーツの推進、文化芸術活動の促進等を行っていくこととしております。具体的にはあともってお渡しいたしました、計画期間における具体的な取組をそれぞれの施策の方向性のもと事業の取組や事業実施していくところでございます。

以上、簡単ではございますが「垂水市教育振興基本計画（案）」における説明を終わります。なお、この振興計画におけるパブリックコメントを1月6日から2月4日まで実施してきております。その結果、1枚紙の両面にあります、基本計画における意見をいただき、市の考え方を取りまとめております。意見につきましては10名、28件が提出されましたが、内3件については「よい計画がなされている。」などの意見のため、今回の資料には掲載をしております。それぞれの意見の概要に対して市の考え方を後のほうに記載しております。

なお、裏面の垂水市教育振興基本計画（案）の修正等につきましては、ページ番号が振ってある17ページから64ページまでをそれぞれの意見に対して計画案の修正等を行ったものでございます。例えばNo.4、17ページの学習障害や注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等となった文言につきましては、学習障害LD、注意欠陥多動性障害ADHD、自閉症スペクトラム等と修正をして振興計画に反映させることとしております。

以上で教育振興基本計画ならびにパブリックコメントの提出状況についてご説明いたしました。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

尾脇市長 …… ありがとうございます。ただいま、教育総務課より説明がありました件につきまして、ご意見・ご質問があればお願いいたします。

坂元教育長 …… この時期、いろいろパブリックコメントが出されておりますけど、反応はどうか。

企画政策課 係長 …… 今、パブリックコメントという形で、市民参画という手段の中で取り組んでいる本市の制度になっておりますが、計画によって、パブリックコメントの件数が多かったり、少なかったりというのはあります。今回はいろいろな計画の見直しのタイミングが重なった関係で、5つ計画がありました。この教育振興基本計画に対しては意見が多く、それ以外ではまちまちでした。ただ、見ている方が多いというのは感じているところです。

尾脇市長 … 少し私のほうで直接的な関係はないですけども、総合計画というのが出てきております。総合計画というのは、垂水のいろいろな計画がある中で最上位計画というものになります。これを基本にしながら、この教育振興基本計画があるということになります。特徴的なのは、第5次総合計画にこれまで3次ぐらいまではシンクタンクに依頼をして、ある程度絵を描いてもらってたんですが、第4次総合計画は鹿児島大学の協力をいただいて、地域のみなさんが参画をしてまちづくりをしていくと。垂水市は縦長で9つの小学校区があるということでもありますので、地域振興計画というのを大事にして、それぞれの10年先をどうしたいのかというのを大野地区を皮切りに手づくりのある、ある意味地域のみなさんにも責任をもってもらった第4次計画は他にない画期的な計画で、総務省事業でありますとかいろいろな計画で予算をつけてもらっていると。これをベースにしながら、九つの彩りということにつながっているところがございます。

田原教育委員 … 全体の計画については、私から申し上げることはありませんが、具体になってきたときに、地域の実情とかと絡めてどうでしょうかと。こんな面もあるのではないかと感じるのがあります。いくつかあるんですが、2つぐらい言ってみたいと思います。

1点目はICTの教育です。タブレットなどの機器を活用する、使いこなす段階までしていかなければいけないのではないかと思います。こういった機器を考えさせる教材として、あるいは自分たちでどんどん使いこなしていくという段階まで高めていかなければいけないと思います。

あともう1点は、地域と学校とが一体となった活動です。今、水之上小学校で取り組んでらっしゃる中で、放課後の子供たちの登下校を地域で見守りをして教えるということをしています。それは「ながら見守り」という形で提案されましたけども、散歩をしながらとか、みんな集まっておしゃべりをしている中で子供たちを見守るとか。あるいは、学校では防災訓練をしますが、その時に地域も一緒になって学校の屋上に避難するとかですね。そういった活動をもっと広めていけたらと思いました。

尾脇市長 … ICTとかというのは、そういう時代ですので、使いこなしていかないといけないと思います。昨日議会の先生方と意見交換会をした時に、若い議員の方はタブレットの導入を要望したいということをおっしゃっていました。そういう時代ですので、うまく活用しながら、導入するにしても、そういったことに対する基礎知識学力というのを身につけるというのは時代の要請なのかなと思います。ありがとうございました。

それでは田之上委員はどうでしょうか。

田之上教育委員 … 私はここ何年か成長していく子供たちを小さい頃から見ている中で、本当にいろんな意味で成長させていただいて、行政であったり、教育であったり、子供たちに対して、地域や周りの大人たちが本当に心を触れ合えてくださって、子供たちを成長させてきてくださっているなということをお見せしていただきたいと思います。ありがとうございます。

特に帰る場所というか、居場所のない子供たち、心の拠り所がない子供たちが多くなっているというのを聞いたりするので、子供たちが大人になった時に、何かあった時に、心の拠り所となるようなものを見つけていけるような教育をしてほしいなと思います。垂水の地域の方々には本当に子供たちを熱心に見てくださって、ありがたい場所だなと思っています。

もう一つは子育ては、子供のことはいくつになっても子供であって心配ですと高齢の方もおっしゃいます。たぶんそうなんだと思うんですけども、いわゆる子育て、子供とじっくり関わって育てる時期というのは本当にあっという間の短い時間なので、本当に親御さんは大変だと思うんですけども、しっかりと子供と関わって、子育てをしていけるように頑張ってもらいたいし、周りも支える環境を作ってもらいたいなと思っています。

最後にもう一点。先ほど、水之上地区の放課後のことも出たんですけど、学童とは別に放課後教室みたいなものが各地にできているみたいなんですけど、学校の教室を使っているみたいなんですけど、垂水には児童館もありませんので非常に良い取り組みだなと思って、将来的にはどうかなと思っています。

尾脇市長 …… ありがとうございます。それぞれですね、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校みたいな形で、先ほどお話がありましたとおり、皆様一生懸命頑張ってもらっていて、この間の成人式でも代表の4人があいさつをされましたけれども、それぞれこの短期間にそれぞれ夢をもって頑張ろうということで、このまま順調にいけばいいなと思う一方で、なかなか思うようにいかないのが人生ですから、失敗をした、挫折をした時にまたしっかりと、それでももう一回頑張るよというような精神的なものも含めて、地域で育てる部分で、そういったものも特に大事な時代になっているんだと思います。学力向上ももちろんではありますけども、そう意味では子育て支援の部分から居場所という話がありましたけども、子供たちもそうですけど、保護者の方も、昔は地域が育てたみたいなのが、今はなかなか難しくなっていますので、そういう場所の交流の場所といった提案だと思いますので、今後検討して前向きにやっていければと思います。

それでは葛迫委員お願いします。

葛迫教育委員 …… 市長が言われたように社会を形づくるには人づくりだと思います。その人づくり、教育をしていく中で、教育をできない子供たちというのがいると思います。そういう子供たちというのは、いじめであったり、不登校であったり、そういう子供たちが学校に来れない。そういう子供たちをどうすれば人づくりを還元できていくのかなと考えたとき、フリースクールであったり、山村留学という制度があるんですけど、こういうのを垂水ではできないのかなと。山村留学で子供たちを迎え入れたりすることで、きっと子供たちが垂水に帰ってきて何かやってくれるんじゃない

ないかということも思ったことがあるんです。そして、山村留学で勉強をする子供たちは、地域が支えていかないといけないと思うんですよね。

そういったことは可能なのかなどを聞いてみたいんですけども。

坂元教育長 …… 山村留学という制度を敷くにあたってはですね、受け入れる家庭がないとだめです。それからしっかりと、いわゆる家庭の中の教育を含めて、食事、その他いろいろなものを含めて、その子の生活をしっかりと支えてあげるそういう家庭。ここを作り上げるまでがなかなか難しい部分なので。山村留学をする子供たちというのは、いろいろなことを掲げて入って来られて、それに対して造詣が深くなければ、なかなかその子に対応できない部分もあって、かえって預かった里親が参ってしまうというような事例も聞いています。よっぽど覚悟を持って受け入れるなら受け入れる、整頓するなら整頓する、学校と里親との関係、それを支える行政。ですので、そこまでいくにはいろいろな手順があって、非常に時間もかかる。それに対する費用的な部分をどうしていくのかということも含めて、かなり時間をかけて、じっくりとやっていかないと、やった方がいいものの失敗してしまうと、これは逆にマイナスイメージに陥ってしまいます。われわれも、もちろんそういったことを視野には入れておりますけども、このことについては慎重でありたいと思っております。

つまり、そういった基盤ができてから、しかるべき時に、可能であればということです。今後の、まだ先の先の課題なのかなという風に思っております。

葛迫教育委員 …… そういう風に都会からの受け入れとかではなく、県内で困っている子供たち、そういう子供たちの支援ができればいいなと思う。今の話を聞くと急には難しいと感じました。なんかもっと知恵を出しあって考えていけたらと思います。

尾脇市長 …… 現状は今教育長がお話をされたことなんだろうと思うのですが、先ほどお話をさせていただきました、教育というのは「人づくり」、やっぱりまちを構成する中で未来の子供たちをしっかりと育てていくことは教育に通じる部分なのですが、前段として生活環境をどう整えていくのかが差があるとお話があったと思います。勉強は得意だけど運動が苦手とか、現実はいいよ、とかそれぞれがあると思うのですが、多様性があると思う。うまくはまれば伸びていくし、将来を見据えた形で、変な言い方になるんですが、育て方は違ってくると思うんです。その中で今ありましたようなフリースクールみたいなのがあればいいよね、というのはその通りなんです。ただ、垂水市の教育委員会でそれをやるとなった時の難しさの話をされて、広域で考えたらどうかとか、一つの事例がわれわれの近くには女の子がいた。なんだけれども、お隣の鹿屋に行って何年かぶりに会ったらしっかりと大人になって、元気で笑顔でということなんです。なので、話はちょっと違いますが医療関係の参加費を考えたときに、垂水市だと103なので250くらいないと経営が成り立た

ない。でも大隅となるとそのことで1人、2人来てくださるということで線引きはわれわれの一つの目安であって、ようは問題は解決するということでもありますので、少なからずそういう子供たちがいて、今あったような環境を整えてあげることによって解決するかもしれない。教育長が言ったような現実的な課題があるのでなかなか解消できないこともその通りなので、どうすればできるか、前向きに慎重に時間をかけながら解決に向かって頑張るということを進めていきたいと思っておりますのでまたそのようなことをよろしくお願いをしたいと思っております。

福里教育委 …
員

子育ての真ただ中で、小学1年生と4年生といるのですが、学校でいろんなことを学んできて、いつもありがたいなと思っております。私は幼稚園で働いている面もあって基本的な生活習慣がなかなか身につけていない方が多い。そして自分も上手にはできないのですが、人任せにだったり、幼稚園に行けばできて当たり前、学校に行けばお勉強できて当たり前という親の気持ちが変わればもう少しいいのかなと私は思います。幼稚園の子でも22時に寝たり22時半に寝たり、朝ご飯を食べてきていないと平気で親の方が言われたりなどあるので、学校も授業参観に行くと居眠りをする子供を見るので、もう少し親の人が協力的にすると違う。基本的なことですが、そういうことができるようになるといいのかなと、もっと良くなるんじゃないかなと思っております。学校の先生のせいではないのに先生のせいになったり、本当に申し訳ないです。いろいろなことが先生たちは大変だなと思うところです。

お勉強はある程度できる子はできる、できない子はできないと思うのですが、心を強く持てる子供になってほしいなど。何かあった時にすぐ学校に行かないとかではなく、嫌なことも乗り越えていける、そういう教育をしていただけると、なかなか親ではできないことが友達を通して、先生を通して強くなっていくのではないかなと思っております。牛根などの親御さんが心配されているのは、中学校に上がった時に実際今少ない中で手取り足取りしてもらっていて、中央中に行くと心配とよく聞くので、そういう心の面で強くなれる、親も協力してできればと思っております。

尾脇市長 …

先ほども少しお話をさせていただきましたが、勉強が順調にしている子供たち。でも人生振り返った時にうまくいかないことが7割、8割なんだと思うんですね。その時にどう考えるか、七転び八起きみたいな心を強くということだと思います。今どうなるかわからないですが、よく地方の少人数の子供たちは大きな中央中学校に行ってどうなのか、私も心配をしていたのですが、逆にそういう子供たちがリーダーシップを発揮して、引っ張ってるんだということも聞いたりするので、自分がやらなきゃみたいな感じですね、嫌でも運動会で全種目に近いぐらい出たりとか、そういうことであったりするなと思っております。

今言ったように、ご飯を食べるってことは基本的なこと、その基本ができていない。もっと深掘するとご飯も食べるものによって変わるんですね。専門家ではないですけれども、三大栄養素とかあったりする

じゃないですか。そういう深堀の中身の、体にどう影響するのかとか、基本は3食食べなさいとかいろいろあったりする。栄養学も戦後と現在では違ってきたりしているので、その辺をまた教育委員会のほうでも研究をしてみるということもどうなのかと。

私自身の反省で、垂水市は水がいいよ、温泉水も9社あるよ、おいしいんだよ、と話で止まっていたのですが、何が違うのかっていうのを特徴を考えた時に、「酸化還元電位」というのが一つの特徴なんですね。PHとかプラスターとかあるのですが、「酸化還元電位」とは何ぞやとなった時に水道水というのはプラスの300～500mV、温泉水はマイナスの300～500mVなんです。プラスかマイナスの違いなのですが、分かりやすく言うとプラスは酸化水、錆びるとか疲れやすいみたいなイメージですよ。「還元」というのは取り除くと意味がありますので、疲れにくいということになったりするのでPH7が中性、8・9になると食べ物でいうと野菜、酸性のものはお肉。だから3倍食べてみたいな話がそこにあるという意味合いを分かってくると、こうしなさいと言っても本人が体感しないとわからないわけですよ。年を取ってくるとあちこち悪くなって、健康のことが気になってくるとちゃんとやらなきゃです。小さいときにそれを習慣的に身につけることができていると、体が元気だったりすると、眠くない、食べ物食べていない。うどんとご飯からすると同じジャンルじゃないですか。その辺のところを卵一つ乗せてもタンパクですとか、その辺の深堀した知識をどうやって実践する。教育委員の場で揉んで各学校にチェックしていく。なので栄養学の健康プロジェクトの中でも栄養学の権威の先生方も昔と違ったことを言ってきていますので、昔の常識が今の子供たちに当たるかどうかの問題もありますので、もう一度その辺を見直す時期でもあるのかもしれない。そういうことを考えていかないといけないのかと思いますところで、また違った視点でのご意見をありがとうございます。

教育長には最後に総括的に聞くとしまして、今のこの計画に関してはそういうことを盛り込みながらご理解いただくということでよろしいでしょうか。

委員一同 … (はい。)

それではそのようにさせていただきます。

それでは、次に(2)意見交換に移りたいと思います。

特にテーマは設けておりませんので、自由な意見交換をお願いいたします。

(2) 意見交換

田原教育委 … 葛迫委員のほうにも関連性があると思いますが、高校関係で事例を見ているのですが、その中で家庭的に貧困なんです。ひとり親で、その頼みの親が病気になっている。そうすると子供たち全体が病気になったような感じで不登校になっていくと。やっぱりこの不登校問題を解決していくにはリスクとかあるが、家庭の生活を立て直すというか、そういうと

ころから入っていかないといけないのかなと思ったりします。福祉の家庭相談員や民生委員の方々の働きが、福祉に実情を伝えていって行政が動いていく。学校と福祉とかなり入り込まないと解決していかないのかなと思う。それから社会で取り組んでいる中で子ども食堂とかあります。ああいう形のものも地域が助けるという意味で取り組んでいかないといけないのかなと思う。そのようなことを不登校問題を見ながら感じています。

それから、これから少子高齢化が進んでいき、外国人がどんどん入ってくる。垂水にもかなり入ってきているのだが、こういう人たちが日本にきちっと適応できているのかですね。そうなったときに外国人同士が結婚をして、その子供たちができたとします。その子供たちの教育はどうなっていくのか。もう少し先のことかもしれないが、言葉の教育だけではなく、日本の文化、決まりなどそういうことも指導していくというような日本語の教育と社会生活の適応への教育、そのような場も欲しいと思う。

尾脇市長

… ありがとうございます。そういう意味で生活環境をどう整えていくのかというのは大事だと思います。みんな同じといってもその関係で違ってきますから、それをどう整えるか。今日は教育の話ですが、垂水市のまちづくりの中でも人口減少社会が非常に問題なんですね。何が問題かというパイが小さくなる。少子高齢化、高齢化が悪いわけではないんですね。バランスが悪くなる、支え手が少なくなるという中でどうやっていくか。人が減っていくごとに逆三角形になっている社会ですから、最終的に定住人口の増が理想なんですが、いきなり住む人はいませんので、そういう意味で「交流人口」とキーワードにやっています。15年前、42万人だった交流人口が200万人近くまで来ておりますから、そのことで経済は広がってきていて、いろんな効果でプラス方向へは見えてきていますから、そうなったときに外国の方々の受け入れとかですね。産業が成り立たなくなってきました。5～6年前に垂水漁協の加工職員を採用ということでベトナムに行きました。非常に優秀で、そこからスタートしたのですが、今垂水の中でも250人以上います。ジャパンファームさんが80人くらいいらっしゃるって、もともと中国の方だったのですが、中国の方は外見が似ていますが、大陸の方ですので主体性がものすごく強いんですね。ベトナムの方は古き良き昭和の、女性みみたいな言われ方をしますが、どういうことかといいますと陰ひなたがなくすごく頑張るということ。そんな傾向があって非常に素直ということで、結果として伸びているということなんです。ただ、受け入れるときに「我が子のようにやってください。」と出し手側のニーズで、今のところ研修と名目なので、3年が5年になりましたが、そこでいいご縁があって、垂水に住んでいただければということもなくなはないと思いますので、そういうことでも環境整備。英語ではなく、母国語も表記をしたり、防災をどうするのか、そういうような生活環境をどうしていくのか見て

いくのが大事と思うところであります。

今のご意見に対して、他に何かありませんか。

坂元教育長 … まず、不登校についてはですね、本市の場合は、福祉課、教育委員会、学校、SSW（スクールソーシャルワーカー）、児相、状況によっては警察等と連携をしながら、特に深刻な状況によっては、ケース会議を開いて進捗状況を確認しながら子供たちの見守りをしている、親も含めて登校を促すようなこともしている。

ご指摘の通り親御さんがそのような状況であればなかなか子供さんも難しい。ただ、そのことについてほっておくわけにはいきませんので、常日頃から学校からアプローチしながら、今申し上げたところと連携をしながら、常に情報共有しながらやっている。幸い、家の中で元気に過ごしているということで、ただそこをどうやって一歩、戸を開けて引き出すかというところを教育委員会としても体制を整えながらやっていきたいと思います。

外国人のことなのですが、ある議員さんから今のような話を聞いたんですね。鹿児島県にも流れたときにそういう外国人の子どもを受け入れる学校が山下小だったのですかね。日本教室、そういうところで諸外国の子供たちを受け入れて、文化を含めながら教えている教室があります。

ですので、本市にもそのような状況が発生するのであれば、例えば中央の垂水小学校にそういう教室を設けて、そういう子供たちを集めてついでということになりますよね。やがてはいろいろと考えなければいけない。その準備段階として実態の把握には務めているところでございます。

尾脇市長 … ありがとうございます。今の関連でほかに皆様から何かありませんか。特にありませんか。

これ以外に気になることとかございますか。

坂元教育長 … 4人の教育委員の皆様から頂きました、ご意見等々振り返っていきますと最終的に行きつくところは「心を作っていくこと」に集約されると思います。一番の大元は家庭教育だと思います。まず家庭の中で居場所を作ってあげるっていうのが非常に大事ですよ。合わせてどうやって家庭の教育力を上げていくのかというのは学校との連動しながらということになります。あるいは地域のバックアップをいただきながらということになります。

私が構想として考えているのは「一家庭、一家訓」と「一家庭、一自慢」をセットで、令和2年度から全家庭で計画を立て取り組んでもらおうと考えています。そういうのを例えば「一家庭、一家訓」は「元気なあいさつ」と簡単なことでいいですね。それがいわゆる家庭の中で円滑に過ごせるルール、マナーをしっかりと身につける、そういうものでいいと思います。「一家庭、一自慢」は「お母さんの優しさと素敵な笑顔」こういうものでいいです。そういったものをきちっと据えることで、家庭の中のコミュニケーションが活性化すると思うんですね。一日一日振

り返りをしながら、そのことを当たり前にしていく。「明るいいきつ」これを当たり前にしていくんですね。そうするとその子にとっては一生の財産ですよ。「一日一善」でもいいですし、あるいは「お手伝い」でもいいんです。そういうことが当たり前になっていく。ということはその子にとっては一生の財産。とするならば、その子はきっと子供にもそういうことを伝えていこう。「一家庭、一家訓」あるいは「一家庭、一自慢」の大切さ、良さみたいなものをですね。この「一家庭、一自慢」もですね、実は自分も含めて好きなところを見つけてもらうということですね。これを目指すところは自尊心を高める。自分はこれは不得意だが、これならできる。自分の好きを見つける。これは自己肯定感につながっていきますね。こういう心に育てていくなれば1回、2回折れてもまた跳ね上がってきます。自分に肯定をする気持ちがありますから。そういう心を令和2年度以降、これまでも同じにしてきたつもりではあるのですが、より市全体の取組としてやっていきたいなと思います。家庭環境の大きな柱になっていく。垂水の教育を全体的に底上げができる。学校教育と連動してさらに良くなりますし、学力向上にもつながると私自身は思っております。

尾脇市長 …… 最後にまた皆さんからひと言ずついただきたいのですが、少し政策的なもので、垂水市として中学生までの医療費無償化、高校生までの無償化ということで3月議会に上程予定であります。保育料に関しても非課税世帯以外の部分の補助、あるいは給食費等々の補助等も議会に上程してということでございます。この間ある方との話をする中で、良いも悪いも現象が起こった時に「ごめんね。」という癖がある。そうではなく、「ありがとう。」というと同じ現象でもいいよね。この間タイに行ってきたのですが、人柄の比較があつて、「日本人はこうだ、タイは前向きだ」とあつて、明るいですね。そうなってくると先ほどのような話でプラスに考えていくとまたいいのかなと。もちろん謝らないといけないときは「ごめんね。」なんですけど、それは感謝の裏返しで「ありがとう」というお互いに気持ちがいいよね、という話がありますのでそのようなことでございます。

最後にこちらからお願いいたします。

葛迫教育委員 …… 今の教育長の話、なるほどなと思ったのですが、「一家庭、一家訓、一自慢」は自慢をすることがあるのはいいこと。僕は絵を描いているのですが、子供たちに絵を描かせるときに、「好きな絵を描きなさい」と言うと子供たちはお父さんを描いたり、お母さんを描いたり。そういう風に子供たちの絵を見ていると嫌いなのはほとんど描かないのですが、好きなものを描くからそこからヒントが出てくればいいかなと思う。ありがとうございました。

福里教育委員 …… 子供と一緒に考えたいと思います。ありがとうございました。

- 田之上教育委員 …… 今皆さんからいいお話が出て、「ありがとう」という言葉は私も本当に好きな言葉なので、大人の側が「ありがとう」だったり「笑顔」だったり「あいさつ」だったり、子供たちにしていけたらいいなと思っているところです。ありがとうございました。
- 田原教育委員 …… 特に「心の教育」、心を支えていくような取り組みをしていければいいと思いました。ありがとうございました。
- 坂元教育長 …… 今年は2020東京オリンピックと共に、燃ゆる感動、鹿児島がごさいます。国体推進課を中心に市の運営能力を高く、高く認めてもらっているところでごさいます。その中にうれしいことは垂水高校生のチームがどうやら綱引きで出てくれるみたいです。これが活性化の一部になればいいなと思います。ぜひぜひ皆さん、こういった形を中心に頑張りたいと思います。必ず成功させたいと思います。よろしく願いいたします。
- 尾脇市長 …… 最後の締めはかぶりしましたが、オリンピック、国体ということでなかなかないご縁でありますので、実際に競技もあるし、先ほど話がありましたように非常に高い評価をいただいておりますので、そういった中で見るだけでもいいですし、絡んでいただくと。いろんなスポーツ選手もトップアスリートも小さいときに選手に声をかけられてとか結構ありますので、そういう場を体感することも大事だと思います。一方で当然関連して芸術等いろいろありますから、そういうことも含めて吸収するチャンスだと思いますので、現場に出向いていただく環境を作っていただくということが大事なのではないかなと思いますので、よろしく願いいたします。
- 尾脇市長 …… それでは（3）その他なのですが、今のことも含めてご理解をいただきたいと思います。これで締めたと思います。ほかに何かございいますか。
（なし）
ということでございます。ありがとうございました。それでは、本日の協議事項は終了いたしましたので事務局へお返しいたします。
- 企画政策課二川課長 …… それでは皆さん、お疲れさまでした。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。
これを持ちまして、令和元年度第1回垂水市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。